日本白血病研究基金令和３年度 研究助成 選考講評

認定特定公益信託 日本白血病研究基金運営委員
稲葉 俊哉（広島大学教授）

新型コロナウイルスの大流行は、収束の確信が持てない状況が続いておりますが、そうした中においても、本年も日本白血病研究基金助成事業に多数応募いただき感謝申し上げます。

応募者数は、前年 2020 年並みの 58 件でした。分野別では、内科 19 件（うち若手枠 2 件)、小児科 9 件（うち若手枠 2 件)、基礎・その他 24 件（うち若手枠 12 件)、学会推薦、毎日賞が 6 件でした。

内科、および小児科の若手枠の応募者数が少ないことが、本年の特徴です。これは、若手の先生方の臨床の負担が増大していることが原因かもしれません。他の研究助成団体においても、昨年の応募者数が増加した反面、今年は減少する傾向が見られています。新型コロナウイルスの流行が学術研究に及ぼす影響について、注視する必要があると思われます。

予備審査の結果、年齢制限なし枠 13 名、若手一般賞枠 7 名が最終選考に残りました。最終審査の結果、年齢制限なし枠の研究助成として、荻村孝特別研究賞に南谷泰仁先生、クレディセゾン賞に指田吾郎先生、清水賞に加藤元博先生のほか、一般研究賞 4 名の受賞が決定しました。若手枠では、井手賞に古屋淳史先生のほか一般研究賞 4 名が受賞されました。加えて、学会推薦臨床医学特別賞 2 名、小児領域特別研究賞である毎日賞 1 名が受賞されました。

受賞された先生方には、誠におめでとうございます。

いずれも甲乙つけがたい研究ばかりであり、最近の新たな分子標的薬や免疫療法の開発による白血病治療のブレイクスルーを受けて、白血病の発症機構や病態解明の基礎研究のみならず、新規治療開発を目指した橋渡し研究が多く取り組まれており、大いに成果が期待されます。

受賞された先生方には、今後のますますのご発展を祈念いたしております。